

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

「みとめ合い、つながり合い、ささえ合い、わたしたちの未来を創ろう 三ツ沢の子」  
 【知】基礎・基本を身に付けて主体的に思考・判断・表現するとともに、知恵をはたらかせて生きる力を育てます。  
 【徳】自他のよさを認め、相手の立場や気持ちを思いやって行動する力を育てます。  
 【体】望ましい生活習慣や楽しく運動する習慣を身に付け、心身ともにたくましく生きる力を育てます。  
 【公】自分の役割と責任を自覚し、他者と協働してよりよい社会を創る力を育てます。  
 【開】自他の違いを受け止めながら、多様性を大切に、ともに生きていく力を育てます。

#### 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

〈主体的に未来を創る力〉

#### 具体化した資質・能力

「主体性・積極性」「問題を発見する力」「問題解決能力」  
 「コミュニケーション能力」「社会生活の中での協調性」

#### 中期取組目標

- 家庭、地域、関係機関との連携を深め、子どもたち一人ひとりが様々な「ひと、もの、こと」とのつながりを実感し、大切に、創り上げていく学校づくりをめざします。
- ◇「わかる授業」「魅力ある授業」「探究・協働の授業」の展開と汎用的能力を育成します。
- ◇人権尊重の精神を基盤とする豊かな心の育成を行います。
- ◇個に寄り添った児童理解と組織的な児童指導を行います。
- ◇集う人々による学びの集合体としての学校づくりを進めます。

#### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①「学力向上アクションプラン」の改善に向けた分析会議を行い、「教えて考えさせる授業」づくりのための授業改善を実践する。②「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を図るとともに、教育DXによる身に付けた知識や技能を使ってよりよく課題を解決していく資質能力を育む。
担当	教育課程部

#### 学力向上に関わる本校の状況

全体的には、横浜市の平均的な学力である。昨年度の学年により見られたばらつきが少なくなった。特に、理科と国語と算数の学習意欲が高く、学力にも伸びが見られる。全体的に学習したことを生かした問題に対する理解力に優れている。

学習意欲及び生活意欲においても、横浜市の平均を概ね上回っている。特に、生活意欲は、「校外生活」「共感性」「自己意識」の項目がいずれも高く、児童が学校でも学校以外の場でも他者と関わりながら前向きに生活していることが分かる。

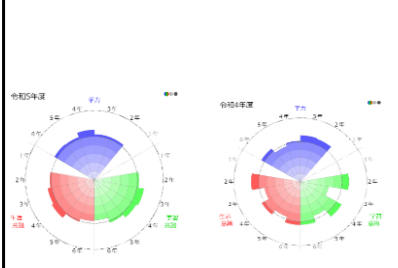
＜国語＞  
教科全体の正答率はどの学年でも市平均をわずかに上回っていた。特に、物語文の登場人物の様子や境遇、気持ちの変化などの読み取りは一定の効果が見られた。一方、学年が上がるとともに、既習漢字の正答率が市平均を下回る傾向が見られた。

＜算数＞  
教科全体の正答率はどの学年でも市平均をわずかに上回っていた。特に「数」の領域では、どの学年も市平均より高い数値であり、全体的に理解ができていたといえる。

＜理科＞  
「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の領域ごとに見ると、市平均を上回っているものが多く、校内重点研究を中心とした学習活動の充実の成果といえる。また学校周辺の豊かな自然から、子どもたちが生活経験の中で身に付けてきた力も結果につながっていると考えられる。

＜社会＞  
教科全体の正答率が市平均を上回る結果だった。地図帳や資料を使って調べる学習や社会科見学で実物を見る経験などは今後も継続していき、役所やまちなかの人々の取組の工夫や思いなどに注目して考えを深めていけるよう、学習活動をより充実させていきたい。

＜外国語活動＞  
基本的な読むこと、聞くこと、書くことについては、正答率が約80%を超えており定着できている。特に一方的な話や発表、説明の内容を捉えることができている。しかし、会話形式になると概要を捉えることに課題が見られる。



#### 今年度の目標

「分かる授業」「魅力ある授業」「探究・協働の授業」の展開と汎用的能力を育成します。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

【基礎基本の定着や自己の考えを発信するための環境づくり】  
 ○1年…安心して学校生活をスタートし、幼児期の学びを生かして主体的に学習に取り組めるように、スタートカリキュラムを工夫する。  
 ○2年…これまで朝学習の時間で反復練習をして基礎・基本の定着のために活用してきたが、授業時間内での繰り返し学習を推進していく。  
 ○3年…子どもたちの興味・感心に合わせた学習内容や体験活動を充実させ、基礎・基本の定着を図る。  
 ○4年…学習活動の基礎・基本として、場面や相手を意識して話を聞くことや自分の考えを発言することができるように指導を行う。  
 ○5年…自分の考えを伝え合う力を身に付けるために、発言しやすい環境を整える。  
 ○6年…共感的に聞く態度を育て、安心して発言できる環境を整える。  
 ○個別級…継続して、基礎的な生活習慣の定着を図る。

【相手意識をもって協働的な学びができる場の設定】  
 ○1年…自分の思いや考えを自信をもって伝えられるように、一人ひとりの考えを大切に。また、友達への思いや考えを受け止めながら学習できるように、聞く指導を徹底する。  
 ○2年…学習したことを活用できるように、目的意識や相手意識を明確にした学習展開を考える。  
 ○3年…自分で考え、自分の言葉で表現できるような学習場面を増やし、考えのつながりを意識した話し合いを工夫する。  
 ○4年…自他の考えを比べて関連付けたりしながら、より良い考えを形成し、表現できるように学習場面を工夫する。  
 ○5年…集団での対話を通して自分なりの考えをもち、相手意識をもって表現したり、伝えたりすることができるようにする。  
 ○6年…問題解決の流れや成果物の作成の中で自分の考えを整理して取り組み、発信できるようにする。  
 ○個別級…個別学習などで、個々の特性に応じた教材やICTを活用し、基礎的な学力の定着を図る。

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①学校行事等で育てたい資質能力を検討し、「社会情動的コンピテンシーの育成」を視点に他者とのコミュニケーション場面の充実を図る。②学校生活における様々な場面で、児童一人ひとりが自尊感情を豊かにし、自己肯定感もち、他者理解をスムーズに行うことができるような教育環境を築く。
担当	特活・人権部

#### 豊かな心に関わる本校の状況

人との関わりを大切にしたり、友達と気持ちよく過ごすよう努力できる子どもたちが多く見られる。優しく素直な子どもも多い。また、地域との繋がりが深く、コロナ禍における行事の縮小の中でも、三ツ沢の地域の良さを自覚し、それを表現できる子どもたちの姿が見られる。素直な心を持っているため、人との関わりの中で、成長したりそれを実感できたりする場面が多い。

一方で、学年が上がるとともに、自尊感情や自己有用感が低くなる傾向がある。決して否定的に捉えているわけではなく、「何が自分にとって望ましいのか」や、「目標を達成するかどうか」など、理想と現実のギャップを感じ、自信がなくなり、決定を人任せにしたり、人のことを自分事として考えることができている。想像力についていうと、友達に優しく接する場面も多く見られるが、言葉の選び方が適切でないことから相手を傷つけてしまうこともある。なぜ、相手が傷つくのかを相手の立場になって考えることができていないことがある。

これらを受け、日々の道徳科の取組だけでなく、各教科領域等において人とのつながりをもたせたり、豊かな体験活動を設定したりすることで、子どもたちが具体的な目標や達成感をもてるようにしている。また、人権週間の取組の中で、他者理解に努めているところである。様々な状況における複雑な課題に答えられるよう、非認知能力の育成をしてコミュニケーションの場面の充実を図っているところである。

#### 今年度の目標

人権尊重の精神を基盤とする豊かな心の育成を行います。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

○人権・児童指導・道徳・学校保健委員会などで、重点目標を教員が共有し、自他を思いやる気持ちを育てていく。  
 ・学校の教育活動全体を通して行う道徳教育と、各学級の道徳の時間との関連を図り、豊かな体験を生かして指導を行う。  
 ・人権週間や人権の年間の取組を見直し、学校の課題を見出し取り組みを計画する。  
 ・自他を大切にすることを全ての教育活動を通して育てられるようにする。  
 ・体験活動を充実させるための教材の吟味を行う。  
 ・体験活動を通して自分なりの思いや考えをもつこと、様々な考え方や価値観を学んでいけるようにする。

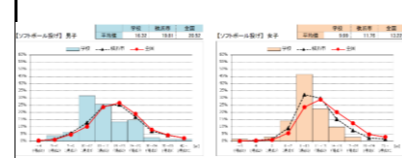
・道徳教育について、家庭、地域に発信し、意識の啓発を図る。習得したことや育成されたことを家庭に伝える。  
 ・意図的に多様な価値観に触れる機会を設定し、多様な考え方について考えていけるようにする。  
 ・価値のある体験活動を通し、思いやりの心や規範意識、望ましい人間関係を築けるようにする。

#### 健やかな体の育成プラン

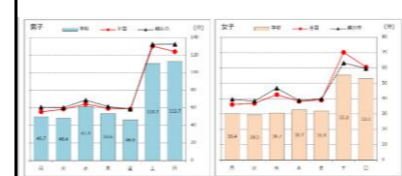
重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①学校教育活動全体で、健康教育の取組を積極的に行っていく。②担任を中心に、養護教諭、学校栄養職員と連携し、児童一人ひとりの健康な生活習慣の確立と食育の充実を図る。③体力、運動能力の状況を把握し、体育科学習を中心として学校生活全体の中で健康・体力の向上を図る。
担当	体育部・食育部

#### 健やかな体に関わる本校の状況

新体力テストの結果から、本校の児童は全国の平均に比べて低いことがわかる。中でも、ソフトボール投げは、平均に比べかなり下回っている。



そして、児童に行った生活実態調査の結果から、ボールを投げる機会の低下や運動する機会の低下、習い事等の多忙化があると考えられる。下のグラフを見ても、横浜市、全国平均に比べて、運動する機会が極端に少ないことが分かる。



しかし、「運動が好きですか」という質問に対しては、男子は約95%、女子は約80%の児童が好きと答えている。このことから、運動する機会の低下が運動能力向上の課題と考えられる。

#### 今年度の目標

運動する機会を増やし、自分自身の生活習慣や体力についての課題に気づき、その課題を解決するための取組を進んで行うことができるようにします。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

○体育の授業を通して、「運動の楽しさ」「正しい体の使い方」「課題解決の楽しさ」を知る。  
 ・自分の課題に合った練習ができるよう、場の設定を工夫し、児童自らが場を選択できるようにする。  
 ・自分の課題を解決するための練習方法を提示し、児童自らが積極的に課題解決することができるよう、授業構成を工夫する。  
 ○運動する機会を増やし、運動を習慣化する。  
 ・学校保健委員会で、「睡眠」をテーマにし、屋外で身体を動かす楽しさ、睡眠と運動の関係などの大切さが伝わるような企画を立てる。

○食育についての取組  
 ・毎月の給食のめあてを知る。  
 ・夏休みに、早寝・早起き・朝ごはんカードを作成し、休みの間も規則正しい生活を送る。

○運動する機会や場を増やし、運動する習慣を付ける。  
 ・運動委員会が運動週間を企画し、児童が積極的に運動する機会を設ける。  
 ・学校保健委員会で考えた取組を、各学級で実践し、学校全体で取組状況を共有する。  
 ・ロング休みを活用し、学級や学年で様々な遊びを通して身体を動かす時間を増やす。  
 ○体育科・保健体育科の授業を充実させる。  
 ・分析した体力テストの結果を活用し、課題となる運動能力を強化する取組を実践する。  
 ・養護教諭と連携し、各学級で健康について学習し、意識を高める。  
 ・運動会では、日頃の体育学習で習得した運動技能を活用できるような競技を計画・実施する。  
 ・運動会でも、競技に取り組むことや、応援することを通して運動することの楽しさを味わう。

○食育について取組  
 ・給食委員会が給食週間を企画し、食べることの大切さなどについて考える機会を設ける。